

年頭所感

東北森林管理局次長・青森事務所長

吉野 示右



平成30年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。
皆様方には、常日頃より、森林林業行政、とりわけ国有林の業務運営に、格別のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本年も引き続きよろしくお願ひいたします。

昨年は、秋田県南地域を中心に大雨による甚大な災害が発生した年でありました。被災された方々には心よりお見舞いを申し上げます。今後、被災地の早期復旧に取り組みとともに、災害に強い森林づくりを進め、緑の国土強靱化に取り組んで参ります。

さて、「森林・林業基本計画」において、原木の安定供給体制の構築が施策の基本的な方針の一事となっています。このことを通じ、林業及び木材産業を安定的に成長発展させ、山村等における就業機会の創出と所得水準の向上をもたらす産業へと転換する林業・木材産業の成長産業化を早期に実現することが極めて重要となっております。

東北森林管理局としても、木材の安定供給のためのシステム販売を推進するほか、伐採と植栽を同時に契約する一貫作業システム、コンテナ苗の活用、列状間伐の推進等低コスト作業システムの導入に努めているところです。

東北地方は、近年、LVLや集成材・合板等の大規模木材加工場や木質バイオマス活用施設が増加しており、国有林としても可能な限りこれらに対応し、森林・林業基本計画が描く世界の実現に努めて参りたいと考えています。

また、地域特有の取組として青森ヒバ林の復元に向けた取組があります。かつてヒバ林が成林していた地域にスギやカラマツを植栽しましたが、そういう地域の中にはヒバの稚幼樹が元気に生育しているところがあります。そういう地域において、主に天然力を活用してスギやカラマツ等の人工林からヒバ林への誘導に向けた取組を推進しております。昨年は「青森ヒバ林復元プロジェクト連携推進協議会」を設立したほか、復元エリアでは人工林の伐採、更新に着手したところですが、青森ヒバ林の復元まで長期の取組となりますが、しっかりと取り組んでいきたいと考えています。

さらに、森林の多様な整備・保全として、食いの虫の北上を阻止するため、青森県西部（深浦町）において、主伐期に達したアカマツ林を

対象に樹種転換に取り組んでいます。近年増加傾向にあるニホンジカについては、三陸中部署及び宮城北部署で積極的に駆除するとともに、世界自然遺産である白神山地でも目撃例が増加していることから、センサーカメラによる監視のほか新たに小型囲い罠を設置し、捕獲を試みています。林業の低コスト化に向けて、しっかりとニホンジカ対策に取り組む必要があります。

新たな課題もありますが、大規模木材加工施設の増加や木質バイオマス活用施設の増加、さらには、森林環境税の創設に関する動きなど、今、森林・林業には明るい兆しを感じられる時代になりつつあります。先人から引き継いだ大切な森林をこれからも守り、育て、活用し、日本の森林・林業の活性化につなげていきたいと考えています。



青森ヒバ林

最後になりますが、皆様にとって、本年がより良い年となりますよう祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。